

ます。そのほかにも、集団での作業ができるかどうかや、その中でコミュニケーションスキルを高めることや、どの部分が利用者さんにとっての強みなのかを見極めること等を行います。生活リズムや病状の安定も最低限必要であると考えているので、整っていない方は基礎訓練の期間が長くなる傾向にあります。期間として短い方は二ヶ月程度で、長い方は一年程かかる方もいます。

それが終わると、さまざまな協力事業所で体験実習を行います。「就労できるだけの力がついた」とご本人と担当スタッフとの間で判断できたら、具体的な求職活動に入ります。就職までと就職後も、全面的に支援を行っていきます。

Q「就労は難しいかな」と思えた人が、訓練を続けるな

何年もひきこもっていた方が
訓練の末に就労し



こうありたいと思う
生活を営めるようになる。
ひとつのリカバリーだと思います。

かで大きく変わって就労に至る例も多いのでしょうか？

北澤 そうですね。たとえば、何年も家にひきこもっていた方が、訓練の末に就労されるケースもあります。

最初の面談の段階では、「ワークネットきょうと」への通所だけで精一杯という感じです。それがだんだん外出できるようになり、社会的になり、仕事に対しても意欲的になっていき、就職につながる。……つまり、希望する職場で就職し、自分がこうありたいと思う生活を営めるようになるということです。ひとつのリカバリーだと思っています。

金森 そうした利用者の方は、まず担当スタッフと信頼関係を作り、他者との交流を楽しめるようになることが、活動の幅を広げる大きなきっかけになります。

そしてそれは、「ワークネットきょうと」だからこそのことだと思っています。というのも、ほかの就労支援施設に比べて、スタッフが個別の利用者一人ひとりと時間をかけて接することができる体制にあり、実際にそれを行っているからです。必要に応じて、三時間くらいかけて面談する場合もありますし、それができるだけのスタッフの配置を行っています。

Q 他の施設よりスタッフ体制が厚いということですか？

金森 ええ。いま、僕も含めてスタッフが八人います。利用者の定員一四名に対してスタッフ八人というのは施設基準と比べて非常に手厚い体制です。その分だけきめ細かい支援ができます。

Q 利用期間は二年とのことですが、多くの利用者が二年以内に基礎訓練から就職に至っているのでしょうか？

金森 はい。当施設の利用者は、一年から一年半の間に就職に至る方が圧倒的に多くて、一年半を超えて通われる方は、割合としてかなり少ないです。そして、利用者の九割程度の方は就職されています。年間20人

利用者の九割程度の方は
就職されています。



程度の方が新規利用者として入ってこられて、18人程度の方が就職されています。

企業開拓と長いアフターフォローが強み

Q 利用者の就職活動の支援として、「企業開拓」に力を入れていそうですね。

金森 はい。「ワークネットきょうと」では利用者の体験実習のためにさまざまな会社とおつきあいがありますが、それらの実習先と利用者の就職先は分けて考えています。就職は、利用者が希望する仕事に就くことが大前提なので……。

たとえば、利用者が「ホテルで働きたい」という希望を持っていたとしたら、障害者雇用が前提にはなりますが、ご本人の通える範囲内でホテルでの求人を探して、そこにスタッフが電話をし、採用担当者に会いに行きます。そして雇用前実習を提案し、その中で利用者に合った業務の切出しや雇用条件のすり合わせを行います。実習を行ったうえで双方の合意があれば、